

日本性科学会ニュース

Japan Society of Sexual Science

第42巻第3号 令和5年(2023年)9月

information

第42回日本性科学会学術集会

会期：2023年10月1日（日）

会場：横浜シンポジア 横浜商工会議所 9F 議場

会長：関口由紀（医療法人 LEADING GIRLS 女性医療クリニック LUNA グループ 理事長・CEO）

テーマ：性を深く掘る

参加費：学会員 12,000 円、非学会員 15,000 円

参加登録・詳細：<https://www.convention-plus.jp/42jsss/>

前夜祭：2023年9月30日（土）18:30 受付開始

会費：6,000 円 ＊お席に限りがございますので参加登録画面よりお早めにお申し込みください。

会場：ザ・ホフブラウ（THE HOF BRAU）神奈川県横浜市中区山下町 25-1 上田ビル 1F

プログラム

8:55 会長挨拶：第42回日本性科学会学術集会 会長 関口由紀

9:00～9:30 会長講演：「なぜ GSM（閉経関連尿路生殖器症候群）が定義され、これからどこへ行くのか？」

関口 由紀（医療法人 LEADING GIRLS 女性医療クリニック LUNA グループ）

9:30～10:00 理事長講演：「精神医学とセクシュアリティ」

針間 克己（日本性科学会 理事長、はりまメンタルクリニック）

10:00～10:30 教育講演：「『画一性』の中に埋没しがちな性の多様性を見逃さない」

早乙女 智子（公益財団法人レイ・パストゥール医学研究センター 文理融合型先端医学研究室）

10:30～11:10 一般演題 1：

座長：内田 洋介（キラメキテラスヘルスケアホスピタル 泌尿器科）

田中 奈美（つくばセントラル病院 産婦人科）

10:30～11:10 一般演題 2：

座長：織田 裕行（関西医科大学 精神神経科学講座）

奥村 敬子（春日井市民病院 泌尿器科）

12:00～12:50 ランチョンセミナー：「最先端フェムテックを活用した性機能強化治療 2023」

「男性・女性へのレーザー治療の経験」講演：安部 弘和（日本橋骨盤底診療所 所長）

「性機能障害に対するフェムテックを利用した新たな治療戦略」講演：中村 綾子（医療法人 LEADING GIRLS 女性医療クリニック LUNA ネクストステージ 泌尿器科）

共催：Fotona Japan 株式会社／TMK メディカル株式会社

13:00～14:00 招請講演：「日本古典文学にみる性と不浄」

田中 貴子（国文学者・甲南大学 文学部日本語日本文学科 教授）

14:00～15:00 招請講演：「まともな性愛」

宮台 真司（社会学者・映画批評家・東京都立大学 教授・至善館大学院 客員教授・兵庫県立芸術文化観光専門職大学 客員教授）

15:00～15:40 一般演題 3：

座長：今井 伸（聖隷浜松病院 リプロダクションセンター）

眞下 祐子（国立病院機構 舞鶴医療センター 看護部 産婦人科・小児科・泌尿器科）

15:40～16:10 一般演題 4：

座長：木村 将貴（杉山産婦人科 生殖医療科・帝京大学医学部 泌尿器科学講座）

宮本 亜希子（スワンクリニック、ビルクリニック）

16:10～17:10 招請講演：「私にとってセックスとはなんだったのか。」

原田 純（作家&編集者・径書房 代表取締役）

17:10 閉会挨拶：第42回日本性科学会学術集会 会長 関口由紀

会場ロビーにてカクテルパーティ（中締め 18:30）

発行人：針間 克己

発行：令和5年（2023年）9月

DTP：松田デザイン・スタジオ

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-2-3 森島ビル 4F

TEL・FAX: 03-3868-3853 E-mail: office@sexology.jp URL: <https://sexology.jp/>

一般診療の中に潜む性的問題

済生会奈良病院婦人科 福本 由美子

今回は性的問題が主訴ではない患者さんの中に性的な視点でもアプローチすることで問題解決に役立った事例を中心にお話をさせていただきました。

性交疼痛障害や挿入障害の患者さんを中心に性カウンセリングを行うようになった頃から、性障害が主訴でない患者さんの中に実は背景に性的な問題が隠れていたり、性的な視点を持って対応することで解決が容易になったり、病状の理解が深まる患者さんが少なからずおられることに気づきました。

婦人科診療では妊娠の可能性について聞きますが、かつては「妊娠の可能性はありますか？」と聞くだけだった自分が、最終の性交日、性交痛の有無やどんなポジションで痛みが生じるのか、避妊法の具体的な内容、例えばコンドームであれば着脱のタイミングなどについてもいつの間にか自然に聞けるようになっていました。

性交痛の要因になりやすい子宮内膜症については、治療法とともに性交痛を軽減する補助具や痛みの生じやすい性交ポジションを避ける工夫について解説しました。

排卵後の卵巣には黄体というホルモンをさかんに分泌する場所ができます。その内部に出血すると、強い腫れや痛みが起きることがあり、性交による刺激で腹腔内に血液が漏れ出すことがありますので痛みが性交がきっかけかどうか診断の目安になることがあります。

間質性膀胱炎という原因不明の疾患があります。最初は膀胱あたりの尿がたまった時の違和感で発症して頻尿となり、徐々に尿がたまった時の強い痛みを生じて、慢性骨盤痛が起きるようになると性交が困難になる方もおられます。生殖可能年齢の方にとっては深刻な悩みとなることもありますので注意が必要です。

高齢の患者さんの中には夫からの強引な性交により会陰部に裂傷が生じている例がありました。優しい夫が80歳を目前にした3か月前から急に妻の様子を無視して性交に及ぶようになり、恐怖を覚えるようになったとのことでした。認知症治療医のセミナーで聞いた話を思い出しました。成書には書かれていないものの、脳を刺激する作用のある薬剤をきっかけに性衝動が強くなり自分自身ではコントロールできなくなるケースを経験したことがあるとのことでした。患者さんの夫はまさに脳を刺激する認知症の治療薬を3か月前から飲み始めたとのことでした。可能性として上記のお話をして認知症治療の担当医に相談に行き、薬剤の減量や変更をお願いすることをお勧めしました。その後は性交による傷で来院さ

れることはなくなりました。

団塊の世代が70歳に差し掛かり、骨盤臓器脱症例の来院が増えています。メディアでも広く報道されるようになり、医療機関に受診してよいというメッセージが伝わったおかげかと思います。最近、骨盤臓器脱の保存的治療であるペッサリーリング（避妊具でなく腔内に挿入して下垂してくる臓器を支える装具 多くはドーナツ型をしている）の使用について新たな動きがあります。これまではペッサリーリングをずっと挿入しておく留置法が中心でしたが、欧米でよく行われているペッサリーリングの自己着脱法を積極的に行おうという方向に進み始めています。日本女性骨盤底医学会では5年前から定期的にペッサリー管理研修会を開始し、私も講師を務めました。自己着脱法では起きて活動している間だけ挿入し、就寝時は患者さん自身が外しますので、帯下の増加や陰部の炎症、腔壁の損傷が起きにくくなりますし、性行動も制限されなくなります。

性交痛の原因の一つに閉経後に起きる外陰部から腔の萎縮や炎症があります。以前はあまり治療は行われませんでした。今は閉経関連泌尿生殖器症候群と呼ばれて困っていれば積極的に治療し、専用のケア用品やレーザー治療なども行われるまでになってきました。治療以前に陰部をどう手当とするかも重要です。女性ホルモン低下で萎縮した皮膚に不適切なケアをしてしまうことでかゆみや痛みが生じたり、性交時に傷つきやすくなります。排尿時に拭くときもじっとあてて動かさないことが肝要です。洗すぎない、しめつけるような下着やパッドを頻繁に使用しない、就寝時には下着を着けないか非常にゆったりした下着にして寝衣を着用するなどの工夫が必要です。それでも改善しないようなら、婦人科受診をお勧めします。腔周りに腔錠や軟膏で女性ホルモンを補って皮膚や粘膜の状態を改善する方法があります。

性科学について学びこれらの症例と出会うことで性行動を生活習慣・生活状況の一つとしてとらえ、気後れせずさりと聞けるようになってきました。そうして得られた情報が病状について理解を早め、問題の根本に切り込む糸口となることもあり、性障害が主訴でないような診療場面でもよりスムーズな診断・治療につながると考えます。

第52回 セックス・カウンセリング研修会の報告

テーマ：性被害/性被害に絡むセックス・カウンセリングの知識と技術

北里大学看護学部 西 佳子

2023年5月28日にセックス・カウンセリング研修会がオンラインで開催されました。医師、看護職、心理職、精神保健福祉士、学生、非医療者（ヘルスケア関連企業）など、89名（講師・ファシリテーター等関係者を除く）の参加があり、非会員の参加者の割合も多く、社会の性暴力への関心の高まりを感じました。

大船複本クリニック精神保健福祉士の斉藤章佳先生からは、『性暴力とセクシュアリティ～加害者臨床から学ぶ子ども性被害の実態』のご講演がありました。150名を超える小児性犯罪者に関わってこられたご経験を基に、子どもへの性犯罪の現状と性的な目的で子どもに近づき、親しくなる手口としての性的グルーミングについて教えていただきました。アンケート回答者からの感想を一部抜粋します。

- ・世間での話題と併せてタイムリーな話題で大変参考になった
- ・被害者被害者にフォーカスすることが多く、加害者についてなかなか触れることが出来なかったので、学べてよかった。

お茶の水女子大学生活科学部心理学科の高橋哲先生からは、『性犯罪者の査定と治療』のご講演がありました。少年鑑別所での事例から、担当心理技官の着眼点をご紹介いただきました。性犯罪は性犯罪ばかり繰り返すのか？という質問に、先行研究では、「専門化」は過大に推定されており、むしろ犯罪の多様性がよくみられるというお話がありました。アンケート回答者からの感想を一部抜粋します。

- ・性犯罪についての噂とリアルについて理解できた。
- ・事例にリアリティがあり、査定（アセスメント）と面接毎の過程を知れて、どのような対応が適切かよく分かった。
- ・治療者の価値観の重要性にも言及され、納得できた。

大阪大学大学院人間科学研究科の野坂祐子先生からは、『トラウマインフォームドケア：性暴力の理解と支援の基本』のご講演がありました。トラウマの影響を理解し、言葉にならない声を聞くためにトラウマインフォームドケアの基本を教えていただきました。また、トラウマケアには3段階あり、あらゆる人（public）を対象とした公衆衛生的アプローチ、トラウマのリスクがある人へのトラウマに対応したケア、トラウマの影響を受けている人へのトラウマに特化したケアがあることをご紹介いただきました。アンケート回答者からの感想を一部抜粋します。

- ・トラウマに対する支援にいかに繊細さが求められるかが

伝わった。「再トラウマ」という単語が大変印象に残っている。

- ・臨床に限らず、日常のどんな場面でもトラウマインフォームドケアの視点を持ちたい。様々な機関がトラウマインフォームドについて学べると良いと思う。

茨城県立医療大学看護学科の加納尚美先生からは、『フォレンジック看護の視点から考える性暴力被害者支援』のご講演がありました。フォレンジック看護とは、身体的・心理的障害の評価と証拠の科学的な記述、影響要因と臨床・病理症状を解釈するために保健医療や社会、司法制度の団体と協働することであり、初期対応から中～長期的支援が役割であることを教えていただきました。また、1970年代に米国とカナダで発展したSANE（SEXUAL ASSAULT NURSE EXAMINER：性暴力対応看護師）プログラムが、日本版性暴力対応看護師（SANE-J）として本邦でも活動が広がっていることを紹介していただきました。アンケート回答者からの感想を一部抜粋します。

- ・概念や歴史的経緯、SANEプログラムの実態と取り組みがよく分かった。
- ・SANEで学べる内容を看護師だけでなく、医学生や他の医療従事者にも拡大してほしいと思った。

本会理事である大川玲子先生からは、『ワンストップ支援センターでの被害者支援状況—sexologistの視点を加えて—』のご講演がありました。男女間における暴力の実態と法律の変遷、2013年から取り組まれている「NPO千葉性暴力被害支援センターちさと」の支援活動についてご紹介いただきました。近年、人権、性の権利の視点で不可欠である性的同意の重要性がようやく主張され始め、不同意性交罪〔2023年7月13日施行〕が刑法に採用されたことについてのお話がありました。アンケート回答者からの感想を一部抜粋します。

- ・性的同意などの言葉を強調することによって隠されてしまう、性の喜びについての側面があることに気づくことができた。見落としていた視点であり、印象に残っている。
- ・男性の性被害に関して、まだまだ受け皿がないことを知ることができてよかった。男性向けの性被害サンプルキットを全国共通で作る取り組みも必要ではないか。

研修会後半には、実際のカウンセリングに関する講義とロールプレイを見た後でグループ・ディスカッションを行いました。もう少し討論の時間を長くして欲しかったという意見もあり、活発な意見交換が行われました。

一般社団法人日本性科学会としてスタートします

2023 年 8 月下旬に、一般社団法人日本性科学会の設立が完了しました。

1979 年に JASCT（日本セックスカウンセラーセラピスト協会）として立ち上がった本会は、1995 年に日本性科学会に改称し、学会組織として今日まで活動してきました。

昨今、日本国内で「性」についての注目が高まっており、性の相談に応じられる専門家がますます求められています。1979 年以来 40 年以上活動を続けてきた本会が、こうした状況の中でどのように人々に貢献できるかを模索した結果、一般社団法人を設立する運びとなりました。これにより、本会が資格認定事業をおこなっている認定セックス・カウンセラーと認定セックス・セラピストの社会的責任や意義の向上を図れるものと考えています。

認定資格の取得にチャレンジすることはもちろん、性科学分野の研究活動を活発におこなうことも、日本の性科学の発展に寄与する大事な活動です。今後ますます会員みなさまの認定資格の取得や資格を活かした活動、研究活動をご支援できるようにしてまいります。

会員のみなさまには引き続き活発にご活動いただき、みなさまとともに日本の性科学の発展に寄与していきたく思います。

法人化に伴う事務局からのご案内（会費、入会届）

一般社団法人日本性科学会名義の金融機関口座が開設でき次第、2023 年度会費の払込用紙をお送りしますので、ご納付をお願いします（ただし、既に 2023 年度分の年会費をいただいている方においては払込みは必要ありませんのでご安心ください）。

また、払込用紙とともに、一般社団法人日本性科学会への入会申込書をお送りしますので、お手数ですがご記入・ご返信をお願いいたします。これは、現在の任意団体日本性科学会としてお預かりしている会員情報を最新のものに更新するためと、（任意団体日本性科学会とは別の組織である）一般社団法人日本性科学会への会員継続意思を書面で確認したほうがよいという司法書士の指導があったためです。

第26 回性の健康世界学会（26th Congress of the World Association for Sexual Health）



**26th Congress of the
WORLD ASSOCIATION FOR
SEXUAL HEALTH**

2-5 November 2023 - Mirage Park Resort, Antalya - TÜRKİYE

2023 年 11 月に、性の健康世界学会の大会がトルコ・アンタルヤで開催されます。日本からも、本会の会員の方もそれ以外の方も多くの方が参加する模様です。以下の HP からまだ申込ができますのでご参加をご検討中の方はサイトをご参照ください。

会 期：2023 年 11 月 2 日（木）～ 5 日（日）（現地時間）

テーマ：BRIDGING THE GAPS: sexual Health, Rights, Justice and Pleasure for all

（隔たりを埋める：すべての人のための性の健康、権利、正義、プレジャー）

会 場：トルコ・アンタルヤ ミラージュパーク リゾートホテル

HP：<https://www.was2023.org/>

新投稿規定のご案内

『日本性科学会雑誌』では、会員のみなさまからの性科学論文の投稿を受け付けています。2024 年度発行の同誌への投稿は、2024 年 1 月末日締切を予定しています。

また、このたび投稿規定の大幅な改訂を行いました。投稿をご検討の方は、新しい規定をご参照ください。

新しい規定は 2023 年 11 月以降にホームページ上で公開予定です。